みんなでつくる 未来 in INDIA

経済成長の裏側で、人口の約4分の1がいまだ貧困に苦しむインド。JICAは草の根技術協力事業を通じて、日本のNGOと連携しながら、貧困層に届く支援を展開している。

地域の子どもたちの命を守る

NPO法人アーシャ＝アジアの農民と歩む会

新しい生命の誕生は、誰にとっても感動的な瞬間。しかし開発途上国では、母親に“育てる”知識が十分になかったり、医療サービスが整っていなかったりと、5歳の誕生日を迎えることなく命を落としてしまう子も少なくない。

母乳のあげ方、赤ちゃんの抱き方、離乳食を始める時期･･･、育児には学ぶべきことがいっぱい。慣れない経験で不安を抱える母親のこころのケアも必要だ。しかしインド北部ウッタル・プラデシュ州の農村では、保健医療サービスが普及していないため、赤ちゃんが栄養失調になってしまったり、下痢症などにかかって発育が遅れてしまったりという現実がある。

そこで立ち上がったのがNPO法人アーシャ＝アジアの農民と歩む会。保健・栄養の専門家が、農村の女性を“保健ボランティア”として育成。地域の母親たちに対して、子育て講習や栄養指導が行えるようトレーニングを重ねた。「自分が生まれ育った村の役に立ちたい」と女性たちは意欲満々で、次々にボランティア希望者が出てくるまでに。同じ村で暮らす女性から教わることで、母親はもちろん、父親も積極的に取り組むようになり、村全体の子育てに対する意識が変わってきた。

現在は、このような活動を近隣の村々へと広げるべく、新たに保健ボランティアとなる人材を育成中。活動範囲は6カ村から27カ村へと拡大し、地域ぐるみで、子どもたちの健やかな成長を願って取り組みを進めている。また、農業を生活の糧とする村の人々の生計向上を目指し、農民組織の設立や技術の普及、職業訓練なども行われている。

農村の女性たちに子育てのノウハウについて指導

各家庭を訪問して母親の相談に乗る保健ボランティア

村人のやる気と努力を引き出す

認定NPO法人ソムニード

「生活に必要な水はどこからくる?」「雨が降って山から流れてくる?」「水を必要な時に使うにはどうすればいい?」･･･。村人に問い掛けているのは、認定NPO法人ソムニードのスタッフ。水不足に悩むインド南東部のアーンドラ・プラデシュ州の農村でのひとこまだ。

ソムニードの支援のアプローチは“あえて手を貸さない”こと。まずは「なぜ?」「どうすればいい?」といった疑問を投げ掛け、地域が抱える問題を議論することから始める。

この地域では、山間部で水不足を引き起こしている原因が森の荒廃と土の疲弊。それが分かった後、「どうすれば森を再生できるか」をみんなで考えた結果、「木を植えて土壌を肥よくにする」という解決策にたどり着いた。

最初は「自分の水田にだけ水が来ればいい」と言っていた村の人々。しかし、みんなで集まって議論するうちに、「村全体で使えるように水を溜めていきたい」と植林に取り組むように。さらに、山から流れてくる水に土が混ざり込まないように石垣を作ったり、河川の水流を調節するためにえん堤を設置したりと、自分たちで費用を工面して、新しいアイデアを次々と実行。新しい設備を維持管理するための組織も立ち上げた。

そして、新たにソムニードと村人が取り組み始めたのが、農地の効果的な利用だ。農業を天候に左右されず持続的に行うためには、土と水を計画的に利用する必要がある。いつ、どこで、どのような農作物を育て、どのくらいの水を使う必要があるのかー。まずは現状を“知る”ために、彼ら自身の手で調査・分析が進められているところだ。

植林した苗木の生育状況を定期的に調査

他の地域の村人に河川の適切な管理について紹介

女性へのビジネストレーニングで　農村を元気に

NPO法人ICA文化事業協会

ワークショップでは女性たちが活発に議論

活気ある所に女性のパワーあり―。世界中どこに行っても、女性が家の外に出て活躍できる地域には活気がある。この女性パワーを村おこしに取り込もうと、インド西部のマハラーシュトラ州の農村で活動している団体がある。NPO法人ICA文化事業協会だ。

インドの農村では、外で働くのは男性、家事をするのは女性といった役割分担が明確だ。そこで実施しているのが女性を対象にしたビジネストレーニング。ビジネスの基礎を伝えるためのワークショップで、まずは「自分たちに何ができるか」を考える。

そして、次のステップは専門家による講習だ。スーパーなどで需要の高い紙バッグの制作方法や、インド料理に欠かせない香辛料マサラの作り方が学べる場を提供。彼女たち自身の手で収入が得られるように技術を学ぶ。このような活動を通じて、女性たちの“働きたい”という意欲は高まり、村が活気付いてきた。

また、この活動に先行して行ってきたのが、農業を通じた村人たちの生計向上だ。乾期でも畑に水を供給できるようにかんがい設備を設置することで、雨期には稲作、乾期には野菜栽培の二毛作が可能に。農家の収入が大きく向上し、女性パワーが増しつつある今、村のさらなる発展が期待される。

かんがい設備が整備されたことで、農作物の生産性も向上